



地域のかお シリーズ112

ふるさと佐土原にて想うこと

広瀬小学校長 佐藤 健一郎

この度の異動で、広瀬小学校に赴任しました佐藤健一郎です。私は佐土原小、佐土原中の卒業生であり、これまで県内各地で勤務してきましたが、今回念願叶って佐土原町での勤務となりました。今その幸せをかみしめながら毎日過ごしています。

さて、広瀬小学校は本年度創立148周年を迎え、649名の子どもたちと55名の教職員で4月にスタートしました。子どもたちは大変素直で、毎朝気持ちのよい挨拶をしてくれる子や笑顔で話しかけてくる子がたくさんいます。また、どの学年の子どもたちも、学習や自分を伸ばす活動に熱心に取り組む、日々いろいろな成長を見せてくれています。

本年度は「地域があって、子どもがいて、学校がある」を学校経営の根幹とし、学校の教育目標である「自ら正しく判断でき、思いやりのある心と丈夫な体をもつ児童の育成」の具現化をめざし、「わくわくいっぱい、やさしいいっぱい、元気いっぱい、つながりいっぱいの学校」を合言葉に全職員で取り組んでいるところです。

その中において特に、「考えて行動する子ども」の育成に力を入れています。私たち大人は、ついよかれと思って子どもたちが考える前に手助けをしてしまっていることはないでしょうか。もちろん自分で乗り越えられないような時は支援も必要です。しかし、チャレンジする前から、子どもたちの前にある壁を取り除いてしまうような支援は、成長する機会を奪ってしまうことになっているのではないのでしょうか。



自分で考え、自分で決めて、やってみることを積み重ねていくことが「自律」につながります。私たち大人の役割は子どもたちの「自律」を促すことだと考えます。

子どもたちの成長は、学校だけでなし得るものではありません。家庭や地域の中においても、子どもたちに考えさせ、自己決定させる場や機会を意識して設けていただくことで確かな成長につながります。

4月当初から、保護者や地域の皆様から話をお伺いする機会がありましたが、その度に、子どもたちを学校と家庭と地域で協力して育んでいこうとする広瀬地区の「地域の力」をひしひしと感じてきました。だからこそ今回のお願いとなります。

「子どもたちの一人一人の夢実現」と「広瀬ならではの教育」のさらなる充実に向けて、これまで以上に学校と家庭と地域ががっちりスクラムを組んで子どもたちを育んでいきたいという強い想いがあります。

保護者の皆様方、地域の皆様のお力添えを賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

地震発生！

旭町児童館利用時の児童引き渡し

重要「大地震・大津波発生時の児童引き渡し」について

1. 揺れを感じたら、直ちに低い姿勢をとり、机の下などに身を隠す。
2. 揺れがおさまったら、一次避難所の館庭に避難する。

3. 津波発生の恐れがある場合、2次避難所の「佐土原総合文化センター」に誘導し避難する。

2次避難所へ避難した場合、児童館の門扉に表示します。
その場合は、「佐土原総合文化センター」へお迎えをお願いします。

「佐土原総合文化センター」
で児童を保護者に引き渡し。

※ 万一の場合に備えて、普段から家族みんなで話し合っておきましょう！

